

# 令和7年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

## 令和7年度重点課題

- |                |            |                |                    |
|----------------|------------|----------------|--------------------|
| 1 学校運営体制の充実    | 2 人権教育の推進  | 3 学習指導の充実      | 4 進路指導の充実          |
| 5 生徒指導の充実      | 6 特別活動の活性化 | 7 安全教育と環境教育の推進 | 8 グローバル化に対応した教育の推進 |
| 9 特色ある学校づくりの推進 | 10 情報教育の推進 |                |                    |

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
I 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) <b>B</b> ----- (所見) ①本校の基本方針である3つの柱を踏まえた教育の実践のために、チームとして組織的に取り組んでおり、教職員全体で本校の基本方針を意識した教育活動を実践できた。	「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育について日頃から教員が意識して取り組み、それぞれ結果を出していることや、数値目標を概ね達成していることから、総合評価「B」という評価は厳しいのではないかと意見があった。それに対し、本校の多田校長が学校評価は数値だけでなく内容や質を重視する方針で評価したこと、さらに、内部からの評価は厳しくなるざるをえないことを説明し、理解をいただいた。	
		①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」「②ややあてはまる」の回答率90%以上をめざす。	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率46.8%で、「②ややあてはまる」も同じく40.4%、合計回答率は87.2%で目標数値には届かなかったが今年の87.8%とほぼ同等の結果となった。			②各学期のeラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的随時にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。
		②eラーニング研修を含め職員朝会や職員会議での啓発を年15回以上実施し、コンプライアンス違反根絶を目指す。	②全体の研修は①夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/31)、②県教委コンプライアンス推進室長による校内研修(8/29)、③冬のeラーニングによるコンプライアンス研修(12/1～12/27)、3回実施できた。職朝等における啓発、注意喚起は19回(1月末現在)実施し、合計15回以上の目標は達成できた。			
	②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。	③「目標管理シート」の評価項目3分野のそれぞれの目標達成率90%以上を目指す。	③年度当初の研修計画を達成した職員は、「達成した」24%、「概ね達成した」76%で併せて100%あった。	③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力の向上だけでなく、生徒指導や校務処理に取り組むことができた。		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等が互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。	①校務運営委員会をはじめ各種委員会や各教科会、顧問会議などにおいて十分な議論を行い、従来のやり方に固執することなく、よりよい形になるよう共通理解を図りながら学校運営を行った。		②風通しの良い職場環境づくりを推進し、コンプライアンス意識を徹底する。研修を、年間を通じて機会ある毎に実施する。職員朝会で注意喚起するとともに、通達文書を回覧するなど内容の周知徹底を図るとともに、外部講師を招いての研修やeラーニングによる研修を引き続き実施する。	
		②eラーニング研修は年間3回、月1回以上職員朝会や職員会議等で注意喚起を行い、コンプライアンス意識の向上を図る。	②夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/31)をはじめ、外部講師による研修も含めて年間3回のコンプライアンス研修を実施した。時機に応じた注意喚起その都度行い、コンプライアンス意識の向上につなげることができた。		③指導と評価の一体化を念頭に、引き続き講習会や授業研究会に積極的に参加し、授業力の向上と改善に努める。	
		③校長との面談を年2回以上実施し、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。	③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を昨年度より一人あたりの時間を確保する形で実施し、年間2回の実施が達成できた。			

<p>2</p> <p>人権教育の推進</p> <p>①人権ホームルーム活動の充実を図る。</p> <p>②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。</p> <p>③人権教育職員研修会の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①全学年5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①全学年1回以上の先行授業及び公開授業を実施する。</p> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高人権新聞」は年間3回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②市高祭「人権展」で来場者200人以上を目指す。</p> <p>③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①HR活動 1年生…5回、2年生…5回、3年生…5回</p> <p>①先行授業 1年生…2回、2年生…2回、3年生…1回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。</p> <p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高人権新聞を年間3回発行。 第1号、2号、3号にそれぞれ20名、19名、10名の人権委員が担当した原稿を掲載した。</p> <p>②「人権展」のために模造紙35枚作成した。今年度は市高祭が公開となり、来場者は225名であった。</p> <p>③PTA研修は人権意見発表会1回実施となり、講演会1回は講師先生の都合により中止となった。校内研修は3回開催することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) <b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づいた活動を実施し、概ね目標どおりの成果をあげることができた。今年度は副担任による授業を各学年1回行い、担任以外の教員の関わりを増やした。3年生の問題意識調査で「市高での人権教育は有意義であった」と回答した生徒は9割を超えることができた。</p> <p>②人権委員会の活動は、年間を通して活発に行うことができています。特に市高祭の「人権展」は、保護者や一般の方と人権問題を通じて繋がることのできる重要な場となり、人権委員が問題に取り組むための大きな刺激となるなど、生徒の自主活動の充実を図ることができた。</p> <p>③人権教育職員研修は、3回実施できた。またPTA研修(人権意見発表会)も1回実施することができた。</p>	<p>市高人権新聞が生徒中心の活動かどうか質問があった。人権新聞の発行については人権教育課が中心になって実施しているが、内容は人権ホームルーム活動の中で、人権委員が実施した取り組みに対して生徒からの感想等をまとめたもので、分量の4分の3は生徒が記載したものであることから、生徒主体の活動であることを説明した。</p>	<p>①人権ホームルーム活動のテーマ設定は時代に沿って柔軟に決められており、生徒の関心を高める内容になっている。そこで、人権委員がファシリテーターとなって行う授業の実現を推進したい。そのためには、クラス担任と人権委員の意思疎通が必要であり、その橋渡し役として人権教育課が機能するように努め、これまでも目標としてきた生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近」なもの「自分ごと」として捉えられる授業内容を積極的に取り入れていきたい。</p> <p>②「人権展」は人権委員にとって最大の行事であり、多くの方と人権問題についての対話ができる絶好の機会である。積極的に展示物の制作が進められるよう指導教員の丁寧な指導が求められる。しかし、生徒の負担が大きくなりすぎない配慮が必要である。人権問題研究部の活動が活性化しており、次年度は活動の幅を広げていけるよう促していきたい。</p> <p>③本年度の研修は、動画を活用した自主研修を1回、講師を招聘した講演を1回(1回は講師先生の都合により中止)、現在本校で問題となっている事象をとりあげて考えてもらう研修を1回、それぞれ実施した。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、また新しい研修のあり方や内容等について次年度以降も工夫していく必要がある。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p> <p>②「市高人権新聞」を発行する。</p> <p>②市高祭で「人権展」を開催する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①1年生は身近な人権問題を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に、アイヌの人々や同和問題、ハンセン病等についてを学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p> <p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、活動当日または翌日に責任を持って提出できた。</p> <p>②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成について責任を持ってやり遂げた。</p> <p>②人権展のためのレポート作成を夏休みを利用して行</p>			

		<p>②「人権啓発作品展」を実施する。</p> <p>③校内研修を実施する。</p> <p>③PTA研修を実施する。</p>	<p>い、その内容をもとに模造紙を作成し、市高祭「人権展」を開催することができた。またその作品は後日エントランスに展示し、本校生徒や来客者に紹介した。</p> <p>②2月に人権啓発作品展を実施した。</p> <p>③1学期に2回、2学期に1回、校内研修等を実施した。内容は、1学期に「人権教育の重要性について～教職員としての経験から～」、夏季休業中に「不登校児童生徒の支援と教育相談」、12月に「教職員の人権意識を高めるために」とした。9月の「人権教育を進めるために～『自分ごと』を自分の言葉で語る～」は講師先生の都合により中止となった。</p> <p>③上記9月の校内研修はPTAと合同で実施する予定であったが講師先生の都合により中止となった。3学期の人権意見発表会については、昨年度同様、PTA役員、発表者の保護者の方々に案内を出す予定である。</p>		<p>る。次年度もさまざまな要望を踏まえつつ、社会的状況に応じた研修を実施したいと考えている。</p>	
3	学習指導の充実	<p>評価指標</p> <p>①授業日数・授業時数の確保に努める。</p> <p>②わかりやすく、魅力ある授業に努める。</p> <p>③学習習慣の定着を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①授業時数確保のため各学期定期考査後の日程を見直しが、評価の時間に割いたため、昨年度より授業時数が減少した。 3学期末までの授業時数 今年度1028(予定)</p> <p>②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2・3年 1回実施</p> <p>②授業満足度は93.7%で昨年より0.8%上昇した。</p> <p>②1・2学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。実施率は平均43.5%であった。</p> <p>③2学期末の調査では、1年生45.7%。2年生32.2%であった。(昨年度1年生34.3%、2年生31.4%)</p> <p>③定期考査ごとに設定し、自己評価をポートフォリオに記入・入力とその内容を項目毎に整理した。</p> <p>③各学年において、ホームルームや個人の学力や学習状況などについて情報共有し、対策について協議し</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>①授業時数を950時間以上確保することができた。</p> <p>②授業参観や授業評価を通して、授業改善に取り組み、わずかであるが目標値を上回る満足度を達成できた。</p> <p>③定期考査前の学習時間では昨年度と比べて改善が見られた。</p> <p>④思考力、表現力の育成のため、授業や評価のあり方を検討する機会が増え、内容も深めることができた。</p>	<p>読書のデジタル化などが進み、図書館への来館目的が変化しており、貸出冊数が伸び悩んでいる。大学での利用の現状が自習・情報検索の場へと変化していることも踏まえ、図書館を自習・探究拠点化し、Wi-Fi整備や席配置の工夫等してはどうかという提案をいただいた。また学習時間3時間以上という目標に対して、部活動や塾等でその時間の確保が難しい状況にあると思うが、どのように想定しているのかという質問があった。それに対して学習時間調査が定期考査前に行われているのでそのときに集中して取り組めるようにしていること、普段については部活動や塾等で1時間程度になってしまう生徒もいるので、週間課題等を設定して日々の授業をフィードバックできるよう各学年で取り組んでいることを説明した。また授業参観週間について、中学校では小学校の授業見学を実施しており、</p>	<p>①評価の時間を確保することや定期考査の実施回数や時期を見直し、行事の精選をしていく必要がある。</p> <p>②生徒の授業満足度は昨年より上昇したが昨年並みである。授業参観、授業評価の実施率は低迷していたが、授業評価について、2学期は管理職が呼びかけ、一斉に行うことで、実施率が大幅に上がった。来年度は日程の見直しと実施方法の変更を行い、教科研究会の開催を設定する案を進めている。</p> <p>③早期からの学習習慣の定着のために、更なるアダプティブラーニングの推進に努めたい。</p> <p>④現課程の入試の傾向に対応できるように、評価のあり方を随時改善していきたい。</p>

④思考力、判断力、表現力を育成する。	④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。 ④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。	④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めた。 ④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。	⑤実践的な英語学習を通して、4技能の指導をバランス良く行うことができた。	学びの継続性の観点からも、中高相互の授業参観を行い、学びの接続強化することへの提案をいただいた。	⑤進路指導目標や生徒の実態に即した環境整備に向け、改善を図る必要がある。 4技能の定着・向上を継続して推し進め、新課程入試に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。
⑤英語4技能を育成する。	⑤すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。 ⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。	⑤1・2年生で3回すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施し、4技能の育成を図った。 ⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。	⑥定期考査後の学習への取組に対する振り返りを定着させることができた。		⑥キャリアパスポートを活用して、学習の振り返りを拡充し、学力の向上につなげたい。また、キャリアパスポートをとおして、多面的・総合的評価の充実をはかりたい。
⑥多面的評価を図る。	⑥全ての学年において、キャリアパスポートを作成させる。 ⑥記録用のワークシートを配信し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題についての振り返りをさせる。	⑥全学年で学習の成果や活動履歴などをキャリアパスポートに記録させた。 ⑥配信課題を準備し、入力作成させた。	⑦図書委員主催の図書館展や1年生対象のビブリオバトルを実施し、読書活動啓発には一定の成果をあげることができた。		⑦次年度も1年生図書館オリエンテーションを行ったり、校内ビブリオバトルを実施したりして、継続して貸出冊数増加に取り組んでいきたい。また読書習慣の定着と図書館利用の促進を積極的に行い、「魅力ある図書館」作りに取り組んでいきたい。
⑦学校図書館の「学習センター」機能の充実を図る。	⑦12月末までの生徒利用のべ人数5,000人、一般貸出し、500冊以上にする。 ⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のある生徒の割合50%以上を目指す。 ⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。	⑦図書館便り8回・新着図書案内2回発行(12/31現在)開館日数154日で、利用延べ人数3,520人、一般貸出し(生徒個人+団体)冊数692冊。(12/31現在) ⑧今まで新聞を読む習慣が無かった生徒(3年生)が89.7%いたが、44.6%の生徒に読む習慣が生まれた。しかし、依然55.4%の生徒に読む習慣がない。昨年42.5% ⑧各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。	⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合的な探究の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が、全体の89.7%を占めていたが、2学期末には、44.6%の生徒が「読む機会を設けるようになった」と回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになったり、依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており、社会への関心度向上につなげることができた。		⑧新聞を購読していない家庭やネットニュースで情報を入手している生徒が増えているため、学校での新聞を使った取り組みの意味合いが高まっていると言える。成年年齢も引き下げられたことから、更に主権者として必要な社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。
⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る。	活動計画 ①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。 ②各学期の第一週を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。 ②教科会議等で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。	活動計画の実施状況 ①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。 ①チャイムとともに授業を始め授業への集中を促した。 ②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。 ②1・2学期末に授業評価を行った。特に2学期については一斉に行うことで実施率が大幅に上がった。教員へのアンケートでは一斉実施について良い反応が見られた。これにより、生徒の意見を授業に反映させ、各教科で授業改善に取り組んでいるところである。			

	<p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し教師相互の授業改善に努める。</p> <p>③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。</p> <p>③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。</p> <p>④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。</p> <p>⑤英語部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。</p> <p>⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。</p> <p>⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。</p> <p>⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に努める。</p> <p>⑧公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑧各学年において、地歴科・公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。参観できる時間の確保とともに実施率の向上が課題である。</p> <p>③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。</p> <p>③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。自習室を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30に年間を通じて開放した。1月26日まで228日開放</p> <p>④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。</p> <p>⑤重点目標を踏まえた環境整備ができつつある。 ⑤TOEFL Junior STANDARDテストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施するとともに、本校を準会場として検定を3回実施した。</p> <p>⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。</p> <p>⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体性、協働性などについて評価する機会を増やした。</p> <p>⑦各教科や学年と連携して図書館を利用したり、学年毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図った。</p> <p>⑧3学年：政治経済において、新聞記事を利用した発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。</p> <p>⑧1学年：講演、2学年：体験型授業を実施し、社会参画の意義について考えた。なお、3学年で予定されていた年金セミナーについても、社会保障の役割について意識を高める貴重な機会となった。</p>		
--	--	---	--	--

4 進路指導の 充実	①生徒一人ひとりの 進路希望の実現に 努める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	IRPや理数探究の各取り組みの名称が分かりづらいとの指摘があり、産学官連携等の取り組みについて、それぞれの名称や内容の説明を行った。理系の探究活動強化という課題には大学との協働が不可欠であることから、大学の協力が必要であるための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。	①学力向上研究会を立ち上げ、学力の分析、学習習慣の定着、進路意識の高揚のため、組織的に取り組む体制ができている。今後も内容を充実させ、目的が達成できるように努めていきたい。また、現課程入試についての情報収集に努め、教職員間で情報を共有するとともに、生徒や保護者への適切な情報提供に努めたい。
		<p>①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を定期的実施する。</p> <p>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</p> <p>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。</p> <p>①難関大学（旧帝大・東科大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。</p> <p>②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度</p>	<p>①3学年は4回実施した。1・2学年は学力向上研究会に代えて各学期に1回実施した。</p> <p>①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。</p> <p>①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。</p> <p>①合格者2名（旧帝大:0名 神戸大:0名 国公立大医学部医学科:0名 早稲田:1名 慶応:1名）（1月26日現在）</p> <p>②3年生のIRPでは各グループが2回以上の面接練習や</p>	<p>(評定) B</p> <p>(所見)</p>		

②IRP活動の充実を図る

70% 以上を目指す。

②IRP活動において、地域に関わる講演を各グループで2回以上（キャリアガイダンスを含む）持つとともに、立ち上げた産学官連携の成功を目指す。

②理数探究の週時定内実施が4年目にあたり、校内での考察にとどまることなく、大学と連携しながら実験や調査といった探究活動の充実を図る。校内の中間発表会だけに留まらず、京都大学ポスターセッション、高校生私の科学研究発表会、徳島県SSH課題研究合同発表等の大会への参加に向けて、トータル10回以上の参加を目指す。

講義を行った。満足度は86.2%、昨年84.1%、一昨年77.2%。

②2年生のIRPは、産学官連携の3年目。地域での調査（講師招聘及び現地訪問）を年間40回以上実施した。平均すると各グループは5回以上となる。中間発表と最終発表を、各グループで実施。全体発表は、あしかびホールで行った。プレゼンテーションソフトで2回発表する形とした。

②理数科の課題研究について、1年生・2年生とも鳴門教育大学教授のサポートを受けながら、探究活動を進めることができた。1年生は、今年度企業と連携し、探究テーマ設定を円滑に進めることができた。2年生は、大学とも連携し、校外大会へ参加した。また、協定を結んでいる京都大学のポスターセッションに参加している。

②IRPIにおいては産学官連携で、探究活動を実施するとともに調査・研究手法も学ぶことができた。また、京大、東大、徳大を中心とした高大連携事業は昨年度より積極的に実施できた。

JSL等）を継続させたいとの共通理解を図った。また本校理数科が活躍してきた科学オリンピック等に対して、競合校が力をつけてきたことが指摘され、他校に負けないよう、競争力を強化するため、大学教員とのマッチング体制整備等を図り、成果の向上を目指すことが確認された。

②高大連携は引き続き徳大、京大を中心としながら、東大との繋がりを強化したい。京大との連携は、京都大学高大接続四国圏高等学校ネットワークに参加し、4年目となる。より充実した事業を期待したい。一方、徳島大学との連携では、医学部スキルラボを実施した。また、歯学部JSLと生物資源産業学部JSLは継続している。今後も学部開拓を進めたい。マイナビのオンラインスタディプランは導入から4年が経ち、廃止の方向。今後は情報と連携しながら、課題発見解決学習を進めることとなる。2年生は、産学官連携の4年目となる。3年目もまずまずの成果を収めたが、協力していただけた企業との相性も考えながら、本校に定着していくよう、細かな部分を整備したい。また、行政も含めた複数連携に取り組みたい。

活動計画

活動計画の実施状況

①生徒の志望の実現に向け、学力を育成するための支援について学年団で話し合い、指導力の向上を図る。

①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。

①入試制度に関する情報やデータの収集に努め、進路説明会やホームページなどをおして、生徒や保護者に適切な情報を提供する。

①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。

①高大連携を推進するとともに、連携事業への参加をうながすことで、生徒の知見を広げる機会を増やす。

①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。

①生徒の状況を把握し、上級学年を意識した声かけを行うため、面談を実施している。

①正確なデータや適切な資料を用い、生徒や保護者へ具体的な方策を提示するように努めた。

①生徒や保護者に対して進路説明会を開催し、情報提供や進路意識の高揚に努めた。

①高大接続改革、新課程についての研修について、「知財学推進事業」や「DX事業」を利用し先進校視察を実施した。刻一刻と高大民間での連携事業は増加しており、校外やオンラインでの体験学習の参加を掲示板やClassiを用いて促した。今年度も大学や研究所、民間企業と連携し、生徒の参加できる機会を提供している。

②京都大学や東京大学の他、徳島大学や甲南大学との高大連携事を継続・充実させ、広い教養をもとに最先端の学知にふれる。

②東京大学で、理数科セミナーを実施。本校卒業生による講演や講義を実施した。今後、東大との継続的な連携について必要性を感じる。京大との高大連携事業は、京都大学高大接続四国圏高等学校ネットワークへ移行。今後ますますの連携が見込まれる。甲南大学とは7年目になる「関西湾岸SDGsチャレンジ」に、4名の生徒が参加した。徳島大学は、教養教育院と「多言語ラボ」、「多文化キャラバン」、「留学生交流会」を実施。歯学部と生物資源産業学部でJSLを実施。医学部ではスキルラボを実施した。また、2年生IRPを中心に、徳大・鳴教大・文理大・四国大からも講師を招聘した。

5 生徒指導の 充実	①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。  ②自転車事故が重大な状況に陥らないようにヘルメットの着用率を上げる。  ③特別なニーズを有する生徒について、支援体制を整える。	<b>評価指標</b> ①登校指導・駐輪場指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①交通マナー啓発運動を年2回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。 ②ヘルメット着用率の調査を各学期に行う。 ②前年度よりも着用率を上げる。 ③教育相談担当者と希望者による校内研修会を1回以上実施し、相談スキルの向上を図る。	<b>評価指標の達成度</b> ①登校指導は年間を通じて毎日行った。 ①学年集会を1年3回、2年3回、3年2回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①交通マナー啓発運動を2回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った。 ②各学年1回実施した。 ②着用率を各学期に調査した。今年度1学期12.5%、2学期10.86%、3学期9.65%であった。昨年度の2.4%よりも着用率は上がっている。 ③精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。	<b>総合評価</b> (評定) <b>B</b> ----- (所見) ①定期的に、集会を実施し、集団生活でのマナーの向上を図ることができた。 ②ヘルメットの着用率は昨年は2.4%、今年度は平均10.93%であり高めることができた。前年度よりも大幅な上昇が見られた。令和8年4月からの規則改正(青切符導入)についても説明を行うことができた。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。	ヘルメット着用率が急向上したことについての質問に対して、合格者説明会における県警講話や愛媛県の取り組みの映像視聴等を今年実施して、保護者ともども意識の啓発ができたこと、また登下校時の交通マナーについても地域からの苦情は減少傾向にあり、引き続き交通指導の強化や生徒及び保護者の意識向上、交通安全意識の啓発を継続していくことを説明した。	①登校指導はほぼ毎日実施している。来年度も継続したいが、人員の確保が必要である。 ①集会を通して、集団生活のマナーやモラルについて今後も指導を行っていく。 ①「円満な学校生活についてのアンケート」で生徒の小さな気づきを大切に、迅速に対応していく。 ②交通マナーアップ運動は月1回実施している。中央署と協力して取り組んだ。来年度も継続していく。特にヘルメットの着用率の上昇に努めていく。(目標は15%以上) ③生徒の状況に応じたケース会議の充実や関係機関との連携をさらに強化し、早期の対応ができるよう心がける必要がある。
		<b>活動計画</b> ①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。 ①学年集会、全校集会で指導する。 ①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う。 ②ヘルメットの着用を啓発し、指導する。 ②県警と協力して、ヘルメット着用の啓発運動に取り組んでいく。 ③1・2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーにアドバイザーを依頼し、研修会を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った。 ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できている。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日のマナーアップ運動、20日の学校安全の日について職員、交通委員で実施した。 ①各担任がアンケート結果を配布した。 ②月1回交通マナーアップ運動を県警と協力して行い、ヘルメット着用の啓発を行った。毎学期着用率のアンケートを実施し、1学期は12.5%、2学期は10.86%、3学期は9.43%であった。平均して10.93%で昨年度から8.53%の上昇が見られた。 ③徳島大学病院山田直樹先生を迎えて、思春期に多くみられる症例と対処法の講座を1学年生徒・教職員に対して実施した。また職員研修として県教育委員会教育相談担当より「不登校生への支援のあり方」の実施、公的機関との連携として「子どもCRT派遣事			

			業」の活用など、教職員の方がスキルアップをはかれるよう支援した。		
6 特別活動の活性化	①部活動の活性化に努める。  ②ボランティア活動や生徒会活動を活性化する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	部活動については、全国大会出場等の実績や、施設等の充実もあり、いろいろな部活動が活躍していることが中学生にとって魅力になっているが、現在中学校では部活動の地域移行が進んでおり、高校の部活動の在り方とのギャップや、経済格差に対する懸念、今後高校での地域移行はどうか等の意見・質問をいただいた。それに対し、完全移行する自治体例はあるが、高校の部活動は学校の魅力化・特色化に大きく寄与していること、また財政的にも難しいこともあり、現在高校における部活動の地域移行は具体的に進んでいないことなどを説明した。
		①部活動加入率90%以上。	①部活動加入率 1年102% 2年104% 3年93% 全体100%	(評定) <b>B</b>	
		①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。	①四国大会以上の出場部数 四国大会 11部 全国大会 12部	(所見) ①部活動加入率はすべての学年において目標値を上回った。兼部する生徒が多いためと思われる。四国大会以上の出場部では目標値を上回るなど、部活動に取り組む生徒の質は低下していない。部活動の実績を維持しながら、さらなる部活動の活性化に取り組むことができた。	
		②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する。	②校内ボランティア活動を年3回実施した。 ②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。	②生徒会新聞の作成は計画通りに行うことができた。記事の内容は少しずつであるが、見直していくことができた。	
活動計画	活動計画の実施状況				
	①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。	①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。			
	①部活動紹介・壮行式・賞状伝達式で意識の高揚を図る。	①今年度はほぼ対面で全校生徒に報告を行った。			
	②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。	②校内美化活動を学期に1回実施した。			
	②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。	②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。			
7 安全教育と環境教育の推進	①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球環境問題について理解を深め、環境を守るための行動をとることができ、人材の育成に取り組む。  ②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	沿岸部に近く県内で最も津波リスクの高い地域に位置していることから、津波対策についての質問があった。それに対し、通常の避難訓練に加え、3階体育館フロアから4～5階への垂直避難訓練なども昨年度実施しており、防災教育の質を高めながら、津波想定防災訓練を継続していくことを説明した。また臨時情報時の休校判断についての質問があり、その判断については現在検討中であることを説明した。
		①節電・節水に努める。	①節電・節水に努めた。	(評定) <b>B</b>	
		①ゴミの分別、減量化に努める。	①ゴミの分別、減量化に努めた。	(所見) ①「分別」「清掃」「リサイクル」が当たり前ででき、節電・節水など身近に取り組める環境アクションにも進んで取り組めるよう機会あるごとに啓発を行った。その成果の一端として、環境委員の活動振り返りアンケートでは、家庭や地域においても行動できる生徒が増えている。	
		①リデュース、リユース、リサイクルに努める。	①リデュース、リユース、リサイクルに努めた。		
	①環境委員による校内環境UP活動を年間6回実施する。	①校内美化活動 6回実施した。			
	①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。	①学校周辺地域の清掃活動 1回実施した。(1年生は3/12予定)			
	②防災について関心の高い生徒の割合を70%以上にする。	②防災に関心の高い生徒の割合 79.2% (生徒授業自己評価結果より) 昨年度 76.7%			
	②生徒の防災士資格取得者を育成する。	②防災士の希望者2名中1名が合格。			

③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。

②防災HRを計画、実施する。

③学校安全の日に合わせ安全点検を実施する。

③心肺蘇生法・アレルギー対応・熱中症対応等に関する職員研修を年1回以上、1学年生徒対象に救急法講習を開催する。

③保健だよりを毎月1回（年間12回）発行し、その内安全に関する内容を年間3回以上発行する。  
（\*③は保健室経営計画を兼ねる）

活動計画

①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。

①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。

①ゴミの分別を徹底する。

①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。

①環境美化に関するポスターや標語を作成する。

①環境委員による校内環境UP活動を実施し、環境掲示板にて報告する。

①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。

①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。

②年2回防災訓練を実施する。

②授業をとおして、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。

②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。

②防災HRを計画し、1回実施した。

③学校安全の日に合わせ、救急箱・救急靴、AED、担架、車椅子等の安全点検を年間12回実施した。

③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応・熱中症研修を1回実施した。また、熱中症予報ボード等を活用して熱中用予防に努めた。

③年間12回発行した保健だよりのうち、その内安全に関する内容を年間5回発刊した。

活動計画の実施状況

①事務室と連携して、使用量の適正化に努めた。昨年同時期と比較して使用量がわずかであるが減った。

①環境委員のポスターを掲示し、節電や節水を呼びかけた。「休み時間にドア開放、授業時は閉める」が浸透し、エアコンの効率が安定した。

①ゴミの分別が不十分なクラスや清掃場所に対して、その都度注意勧告を行った。

①各HR教室での古紙回収ボックスの活用が浸透してきた。

①環境委員がポスターを作成・掲示し、環境美化活動を実施した。優秀な作品は委員会内で表彰した。

①各学年の環境委員により活動を実施し、各HRにて報告した。

①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃奉仕活動を行った。

①定期的に各HRにおいて、環境美化や省エネについて、呼びかけた。

②1・2学期に防災訓練を各1回実施した。新型コロナウイルスの5類移行をうけて、本来の避難場所であるメインアリーナへの避難集合を実施した

②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。

②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。

「とくしまGXスクール」認定校として、引き続き環境に関心を持ち、行動できる人材の育成を目指して取り組むことができた。

②校内での取り組みとして避難訓練を計画通り実施することができた。地震で火災が発生したことを想定し、グラウンドへの避難を実施した。また、2月に実施した防災HRでは、防災への意識高揚と、自分や周囲の人の生命を守るためには、日頃からの備えが大切であることを再確認させることができた。

③保健委員会の活動や保健だより、掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋げることができた。職員研修では、赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力が向上した。

実行に取り組みたい。防災士については、希望者が3年生のみだったが、1年生で防災士の資格取得を促し、全学年に防災士が在籍するよう啓発したい。次年度は、津波避難に向けた2次避難の訓練が実施できるよう計画の見直しをするとともに、地域との共同訓練も検討していきたい。防災委員会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整え、地域との連携に繋げていく事が課題である。

③保健委員会による日々の活動や保健だよりの発行、文化祭の保健展のような学校行事の機会を捉えて、継続して安全や健康に関する意識を高めていきたい。職員研修については、実践的な研修となるよう事例等を多く取り入れ、資質・能力の向上に繋げていきたい。

		<p>②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。</p> <p>③毎月1回AED・車椅子・担架・救急靴の点検・管理等を行う。</p> <p>③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。</p> <p>③文化祭保健展や保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当などについて取り上げる。</p>	<p>②防災HRを計画し、実施した。</p> <p>③保健委員会の活動として教室内の安全点検を実施した。学校安全の日にはAED・車椅子・担架・救急靴の点検を実施し記録した。</p> <p>③赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の職員研修を実施したが、シミュレーションを取り入れた実践的な内容とまではいかなかった。</p> <p>③各時季に合ったテーマについて保健委員が調べ、保健だよりのコーナーや文化祭保健展において発信したり、クラスで呼びかけを行うなど、保健委員による啓発活動を行った。</p>											
<p>8</p> <p>グローバル化に対応した教育の</p>	<p>①グローバル化に対応した教育を推進する。</p>	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="532 658 724 720">評価指標</th> <td data-bbox="724 658 1133 1035"> <p>①台湾やサギノーとの交流、多文化キャラバン隊参加者、多言語ラボ（中国語・ドイツ語）、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="532 1035 724 1097">活動計画</th> <td data-bbox="724 1035 1133 1758"> <p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPIにおいて、徳島の探究を進め、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。</p> <p>①台湾・国立潮州高級中学、サギノー大学との交流を通じて、アジアや欧米の高校生から幅広い知識を吸収する。</p> </td> </tr> </table>	評価指標	<p>①台湾やサギノーとの交流、多文化キャラバン隊参加者、多言語ラボ（中国語・ドイツ語）、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。</p>	活動計画	<p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPIにおいて、徳島の探究を進め、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。</p> <p>①台湾・国立潮州高級中学、サギノー大学との交流を通じて、アジアや欧米の高校生から幅広い知識を吸収する。</p>	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1149 658 1750 720">評価指標の達成度</th> <td data-bbox="1149 658 1750 1035"> <p>①サギノーへの短期留学は昨年に引き続き実施し、今年は3度目。台湾姉妹校への短期留学は今年度は実施はできなかったもののオンライン交流を実施した。多文化キャラバンと多言語ラボ、留学生交流会も実施され、その満足度は80%を超えた。参加者は、多文化キャラバン20名、多言語ラボ中国語17名、ドイツ語は27名の受講者がおり、対面等で楽しみながら言語学習を行った。1月の留学生交流会高校体験も実施し、授業の他、昼食会や部活動へも参加した</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="1149 1035 1750 1097">活動計画の実施状況</th> <td data-bbox="1149 1035 1750 1758"> <p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。</p> <p>①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。</p> <p>①サギノー短期留学(15名)、台湾国立潮州高級中学へのオンライン交流(23名)では、多文化を直接体験する良い機会となっている。今後も研修を継続させたい。</p> </td> </tr> </table>	評価指標の達成度	<p>①サギノーへの短期留学は昨年に引き続き実施し、今年は3度目。台湾姉妹校への短期留学は今年度は実施はできなかったもののオンライン交流を実施した。多文化キャラバンと多言語ラボ、留学生交流会も実施され、その満足度は80%を超えた。参加者は、多文化キャラバン20名、多言語ラボ中国語17名、ドイツ語は27名の受講者がおり、対面等で楽しみながら言語学習を行った。1月の留学生交流会高校体験も実施し、授業の他、昼食会や部活動へも参加した</p>	活動計画の実施状況	<p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。</p> <p>①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。</p> <p>①サギノー短期留学(15名)、台湾国立潮州高級中学へのオンライン交流(23名)では、多文化を直接体験する良い機会となっている。今後も研修を継続させたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <p>①世界各国の文化や言語を学び、また地元の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらに念願であったサギノー短期留学や台湾姉妹校との交流も実施でき、グローバル教育を推し進めることができた。</p>	<p>学校側からサギノー市短期留学や台湾姉妹校とのオンライン交流、多言語ラボ、多文化キャラバン、徳大留学生との交流等、現在実施しているものを継続、また新入生から修学旅行に海外の選択が加わるため、より国際教育を強化する方針であることを説明し、委員から確認をいただいた。</p>	<p>①サギノー語学研修や台湾オンライン交流が行われ、充実した事業が実施できた。多文化キャラバンで文理大学留学生との交流はあまりなかったが、徳島大学と連携している多言語ラボ、徳大留学生交流会は予定通り実施できた。今後、台湾研修に関しては、令和9年度より修学旅行での選択で実施する予定である。</p>
評価指標	<p>①台湾やサギノーとの交流、多文化キャラバン隊参加者、多言語ラボ（中国語・ドイツ語）、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。</p>													
活動計画	<p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPIにおいて、徳島の探究を進め、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。</p> <p>①台湾・国立潮州高級中学、サギノー大学との交流を通じて、アジアや欧米の高校生から幅広い知識を吸収する。</p>													
評価指標の達成度	<p>①サギノーへの短期留学は昨年に引き続き実施し、今年は3度目。台湾姉妹校への短期留学は今年度は実施はできなかったもののオンライン交流を実施した。多文化キャラバンと多言語ラボ、留学生交流会も実施され、その満足度は80%を超えた。参加者は、多文化キャラバン20名、多言語ラボ中国語17名、ドイツ語は27名の受講者がおり、対面等で楽しみながら言語学習を行った。1月の留学生交流会高校体験も実施し、授業の他、昼食会や部活動へも参加した</p>													
活動計画の実施状況	<p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。</p> <p>①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。</p> <p>①サギノー短期留学(15名)、台湾国立潮州高級中学へのオンライン交流(23名)では、多文化を直接体験する良い機会となっている。今後も研修を継続させたい。</p>													

		①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。	①多言語ラボ中国語17名、ドイツ語は27名の生徒が受講した。			
9 特色ある学校づくりの推進	評価指標	評価指標の達成度		総合評価	学校評価総括評価表における数値目標は概ね達成見込みであることを確認いただいた。また学校評価アンケートの議題の中では、3年間全体を総括する「卒業時アンケート」を導入することでより包括的な評価が可能となるのではないかととの提案をいただいた。	
	①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。	①学校ホームページへのアクセス件数、年間200,000件以上を目指す。	①アクセス数173,313件 (4/1~1/15) 昨年度208,034件	(評定) <b>B</b>		①ホームページへのアクセス数はほぼ昨年並みであり、中学生、地域の関心の高さが伺えた。今後も関心を持ってもらえるようなHP作成を行いたい。 ②PTA総会の参加率の数値はコロナ禍後の反動が落ち着き下降気味である。これ以上下がらないよう周知と呼びかけを工夫していきたい。 家庭教育部文化教養講座は、ガラス工芸を行い、好評であった。会場の大きさや設備等でできることは限られるが、PTA会員が交流できる貴重な機会なので、満足度の高い内容を今後も継続して検討し、できる限り参加人数の向上を目指したい。 ③学校説明会や中学校での高校説明会などの開催できる機会を通じて、できるかぎり、中学生へ本校の魅力を情報発信していきたい。また、3Dバーチャル体験入学のコンテンツや、学校説明用のDVDを作成して中学校に広報して授業等で利用してもらうなどした。来年度はオープンスクールの参加人数等の制限をなくす予定である。
	②保護者と積極的に情報交換し、日頃の教育活動に生かす。	②PTA関係行事の内容を精査・検討し、保護者・教職員の業務の効率化を目指すとともに、内容を充実させ、PTA総会や各種研修会の参加率を増やす。	②PTA総会の参加率 32.9% 昨年度は35.3% 3年対象進路説明会 71.3% 昨年度75.0%	(所見) ①学校行事や授業の様子を記事と写真で配信し、保護者や中学生等に対して積極的な情報提供をすることができた。		
	③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。 1 市高祭の公開 2 オープンスクール等の実施	③市高祭の入場者数1,200人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示・バザール等の参加団体数42以上を目指す。 ③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。 ③オープンスクールの各回参加者数200人以上を目指す。	③市高祭の入場者数 1,780人 ③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42団体 ③学校説明会参加者 2日間で808名 ③オープンスクール参加者 1回目386名 2回目344名 3回目157名	②PTA総会の参加率は昨年度より2.4%下がったが、3割を維持することができた。また、3年の進路説明会は昨年度より3.7%下がったが7割を超えての参加率を維持できた。役員会は5回行い、PTA役員と連携して活動することで諸行事を円滑に進めることができた。また文化教養講座では親睦を深め文化祭等の教育活動に活かすことができた。		
活動計画	活動計画の実施状況					
	①ホームページの更新を年に200回以上行う。	①152件 (4/1~1/15) 昨年度同時期 158件				
	②PTA総会を円滑に実施するため、実施方法や役割分担等について事前の調整や準備を行う。また配布物による案内とともに、Classi、ホームページ等を利用し、きめ細かい情報提供を行う。	②役割分担等の事前調整を行い滞りなくPTA総会を実施した。今年は、参加率が下がったが、参加率としてはコロナ禍前の数値並である。またClassiを利用した保護者への連絡やアンケート等を行い情報提供を行った。				
	②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。	②PTA家庭教育部主催文化教養講座のアンケートでは、内容について、「大変よかった」又は「よかった」の回答が100%で、好意的な意見が多く見られた。		③学校説明会はあしかびホールにて6/28(土)と6/30(月)の2回で実施した。参加者は昨年度よりかなり増加し、808名であった。本校への関心を持っている多くの中学生、保護者に対応することができた。		
	③教職員・保護者による作品展への出品をClassi等で積極的に呼びかけ、展示内容の充実に努める。	③文化教養講座でガラス工芸を行い、市高祭の「職員・保護者展」で教職員および保護者の作品を展示した。また保護者及び教職員の作品展示も行った。200名以上の方に鑑賞していただき、作品について良い反応の感想をいただいた。準備活動を含め、PTAの親睦を深め、内容の充実を図った。				
	③計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやす	③ポスターやチラシを、関係中学校への広報活動にま				

		い説明に努める。学校説明会を実施しない中学校にはDVDの配付に努める。	わった。5月22校、7月32校、10月・11月9校の中学校に対して訪問を行った。		
10 情報教育の 推進	①情報教育を拡充する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価  (評定)  <b>B</b>	学校評価総括評価表については評価の確認をいただいた。また学校評価アンケートの議題の中で、大学で導入が進んでいるデジタルによるオープンバッジを導入して、生徒の学習や各種活動の意欲を促進してはどうかとの提案があった。
		①年間3回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上に関する教員対象の研修会を実施する。	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、生成AIや情報セキュリティやDXハイスクールにともなう研修を3回実施した。		
	②生徒一人1台のタブレット端末の不具合に迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。	②不具合の事案を整理し、対応策を課内で共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。	②タブレットの不具合に対する校内での対策を適切に行うことができた。		
	②ICT環境の改善を進める。	②様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。		②研修会を通して、積極的にITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。	
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等を通して、情報モラルの向上に取り組んだ。			①タブレット端末や通信環境の不具合に教員と生徒が柔軟に対応できるようにしたい。 ②機器のトラブルに関して、タブレットの性能の問題と同時に、取り扱いにも問題が見られた。来年度は注意喚起を定期的に行っていきたい。